きょうのせんせい

町子

　毎日、どこか体調が悪い。頭が痛かったり、お腹が痛かったり、なんとなくだるかったり、症状は様々だけれど何時でも体調が悪い。おまけに私には鉄分が不足しているらしく、立ち上がるとほとんどの場合眩暈がするし、貧血で倒れることもしょっちゅうある。病気があるわけではなく、ただの不養生、不摂生から来るもので、生活を改善すれば自然と良くなっていくんだろうけど、でも私に規則正しい生活をしろなんて無理以外の何物でもない。それに、いつも気だるげで体調が悪そうで不健康な女の子って素敵だと思うのだ。周りは馬鹿ばっかりの中学校、その中にひとりそんな子がいたら、ああ、荒れた生活してるんだ、精神が不安定なんだ、部活に明け暮れて、毎日馬鹿みたいなことで爆笑して悩んで、でも結局底の浅い、哲学?なにそれ、みたいな、家に帰るとさっさと寝てしまうガキとは違うんだなって誰でも思うはずだ。
　全部普段から思っていることだけど、まあそんなこと思っている私も十分に馬鹿だってことはわかる。不健康と言われる行動で最も手軽で私がよくする、『夜更かし』の理由は読んでいる最中の本の続きが気になるからとか、深夜に放送される映画が観たいとかで、普通の中学生じゃない、そう認識してもらうためだけではないけれど、でもどちらにしろわざわざ不健康な生活をしているということには変わりない。昨日観たテレビ番組でよくそんなに盛り上がれるものだ、と嘲笑が8割、哀れみが2割で思う。だって私は馬鹿ではないのだ。普通の中学生とは違うのだ。親に与えられた携帯電話で、『死にたい』だの『もう誰も信じられない』だの『病んでる』だの、お前はその年で何を以て悟りきったようなことを言っているんだと思うような自己満足の文とも呼べない文をブログに書いたかと思えば、『○○は私の親友、これからもずーっと一緒』とか吐き気のする文を次の日に書いたりして、生死の感覚がそんなものでいいのか、とこれにはもう哀れみという感情しか湧いてこない。

　かわいそう。

　中学校にはかわいそうな子がたくさんいる。
　私のひとつ上の学年で、膣口から電球を奥深くまでいれられて、そしてお腹を蹴られて中で電球が割れ、一生子供が産めなくなってしまった子がいたらしい。想像しただけで痛い。
　私のクラスでいじめられている女の子は、この前同じクラスの男子に輪姦されていた。その日から休み時間の度に何処かへ引き摺られてゆく。虚ろな目が合った。
　4組の男子はクラス全員の前で服を脱がされて写真まで撮られて、その写真で脅されて、誰かが学校裏の山から採ってきた虫を食べさせられたらしい。おいしかったのかな。
　笑っている子もいるけど、でもみんなかわいそう。何処かが足りていない。とても大切なものを持っていない。そんな子たちを今日も哀れんでいる、いつでも体調の悪い不健康な私。
　足りていないものは何かなんて、足りていない人間ばかりの空間ではわからない。コンクリートの四角くて無骨な校舎、その中に、足りていない人間と一緒に放課後のチャイムまで閉じ込められるなんて拷問でしかない。
　電球のあの子も、輪姦されたあの子も、あと虫の子も、周りの悪魔みたいなことを平気でして

しまう悪魔たちと同じくらい足りていないと思う。足りていないというか、みんな、奪われたんだと思う。コンクリートの塊の中に馬鹿同士でいたら、奪い合うのも当然かもしれないけれど、でも奪い合ったものは奪ったところでどうしようもないものだったからみんな捨ててしまったんだ。
　輪姦された子は肉体的な話、そろそろ痛みが快感に変わる頃だと思う。もう抵抗することはないはずだ。だってもう純潔だとかそういうものは二度と取り返せない。その行為を受け入れて、それを喜ばしいことだとでも脳内でうまい具合に変換する術を知ってしまえばもう辛いことではないのかもしれない。それができるならさっさとそうしてしまって、何も感じなくなったら、若しくはそれが快感に変わってしまえばもう怖いものなど無い。順応、というやつだ。そういうものだと思いこめば、天国だって地獄になり得るし、地獄だって天国になり得るし、都合のいい方に変換してそれで幸せなら、痛みを感じなくなるならそれでいいと思うのだ。生まれたときから1時間おきに針を刺されていた人間がいるとする。そんな人間は多分、針を刺されないことに不安を感じると思う…とこれはなんだか極端な話だという気がしないでもないが。ここまで考えて生きてると疲れる。

　寝る前、不意に目に入った画鋲を手のひらに刺してみた。思っていたほど痛くなくて、血液の玉を見て、血液が赤く見えるのはヘモグロビンの所為なんだよなあとこの前の授業の内容を思い出してみたりもした。
　結局いつでも何も変わらない。あの子は一生子供は望めないし、あの子は卒業までまわされるんだろうし、虫の子は明日も普通なら絶対にやりたくないような、考えたくもないようなことをさせられるだろう。あーあ、かわいそ、と思いながら部屋の電気を消して、いつも通り不眠に悩まされる我が身を少しだけ呪った。

　そして、保健室の京野先生は明日もきっと、いつも通りに私を犯すのだ。奪い奪われそして捨てて、足りていないのは私だって同じだった。

きょうのせんせい

http://p.booklog.jp/book/23784

著者 : 町子
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/purplestarrock/profile

発行所 : ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/23784

ブクログのパブー本棚へ入れる
http://booklog.jp/puboo/book/23784